

麻績老連会報

第72号 2020(令和2)年10月15日発行

麻績村老人クラブ連合会

麻績老連マレットゴルフ交流会(第10回) コロナ禍の中71名参加



マレット会場(受付)

七月二十一日麻績老連マレットゴルフ交流会が麻績マレットクラブの皆さんの協力のもと開催された。

新型コロナウイルス感染防止に関して、マスクの着用、できるだけ「三密」をさけて又受け付け時、体温測定を実施し感染防止、図っての開催となった。

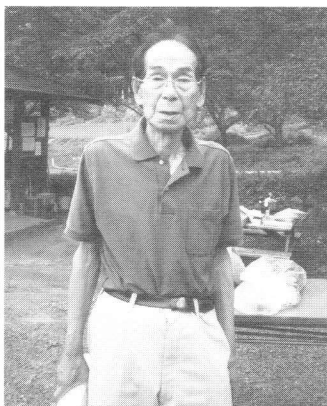
今年コロナ禍の中、親睦旅

『マレットゴルフ交流会』

行、その他各種イベントが中止となり、マレットも中止が叫ばれましたが開催される運びとなりました。

家に閉じ込めりがちな日々、久々に外に出ての野外プレーで皆はりきってはつらつと競技を楽しんでいた。

表彰式では各種商品が授与され、そのなかで功労賞として最高齢(九十歳)で現役プレーヤーとして、いまだ元気に参加して頂いている「宮川嘉巳」さんが表彰された。



特別功労賞 宮川 嘉巳さん

麻績老人クラブ連合会 全体役員会開催

六月十二日(金)交流センターにて第一回目の全体役員会が開催された。

コロナ禍の中、いたるところで各種イベント、事業が中止となるなか、老連として、今年度いかに事業を進めたらよいか検討された。

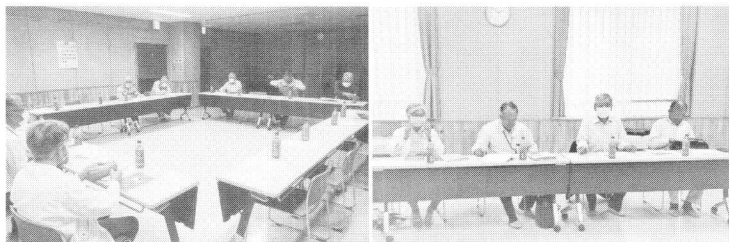
一、マレットゴルフ大会
コロナ感染防止対策を考慮し実施する。

二、親睦旅行について
七月末までのアンケート調査によって判断(調査結果により今年度中止となる)

三、その他事業関係
福祉のつどい中止
敬老会コロナウイルスの影響で中止

雑巾寄付協力のお願い
締め切り日十一月二十七日
までに役場住民課山本主任に届ける

●その他、各地区の老連の休会が多くなっている現状の打開策がないか検討された。



マレットゴルフ交流会 第10回大会 写真特集



●クラブ

- 3Dクロスカーボンシャフト
- 耐強度ホーゼル
- DMCバランス設計
- オフセンターヘッド
- 超硬合金
- ダイヤモンドハイパーフェース

●ボール

マレットゴルフ 発祥の地「長野県」?

長野県においては、マレットゴルフは長野発祥というのが通説なのだそう。

実際には一九七七年(昭和五二年)に福井運動公園指導課長らによって考案され、一九八一年(昭和五六年)長野に移入されて長野県でも発達したと考えるのが、妥当とのことのようにです。

『マレットゴルフ特徴』
一、一人でも、二人以上でも競いながら楽しめる。

二、個人戦なので人に迷惑をかけずにプレーできる。

三、ゴルフと同じ感覚で豪快なショット、パターの妙を楽しめる、ゴルフよりも安価にできる。

四、性別、年齢に関係なく、「いつでも」誰とでも楽しむことができる。

五、自然を相手に広い場で伸び伸びと打ったり、コースの微妙な起伏を読んだり仲間と語りながらコースを廻ることは仲間作りや健康づくりに役だつ。

桑山マレットがスタート

桑山長寿会でこの程六月二十一日にマレット会員を募集し二十五名の会員でスタートした。人生百年時代に突入り皆元気にそれぞれ頑張っている。老化は足から始まるとの事、綺麗な空気を胸一杯吸い

和気あいあい慌てず、あせらず、のんびりとホールを狙い基礎練習をして、次期麻績老連のマレット交流会では上位入賞を目指します。

小山正文会長のもと60代が3名、70代が19名、80代が3名と年代構成は最高、毎月練習日を20日と決め、上達次第で大会をする事とした。

今年春先からコロナウイルスで、外出は自粛されて、五月下旬より解除されたが自粛ムードが約半年間あったので、松本、安曇へ買い物に出てもぎこちない、景気回復に国民に給付金が支給され地域活性化の為に協力したいものだ!!

マレット交流会で上達して市町村のマレット大会にも出場したり、仲間と泊まりでマレットをして親睦を深めた。皆さん頑張ってください。

まだまだ大会を募ります。
小山紀慶

支部便り

上町笑和会

上町笑和会は2018年十一月八日鹿教湯温泉の親睦旅行を行い、2019年には別所温泉を予定し楽しみにしていたが、新型コロナウイルス感染禍のため、平成三十



2018年(平成30年) 11月8日 上町笑和会 鹿教湯温泉親睦旅行

年の集合写真を載せませす。

その理由は、2020年は役員改選の年度であり関係者が検討し、今後の2年間は役員が継続してその任にあたることになったため、執行関係者の五月まではコロナ禍のため諸般の行事を中止してきましたが、七月からは社協の生活習慣改善教室と笑和会の健康体操の集いを再開、みなさんから大変喜ばれております。

(木藤芳政)

市野川 りんどうクラブ

今年度は、新規会員十一名が入会され、総勢四十九名で発足して、賑やかになり嬉しい限りです。

活動状況は、春に市野川神社の清掃を会員多数で行い、六月中旬に国道四〇三号線添いに、マリーゴールド、黄花コスモス、コスモスの三種類を会員三十数名で植え付け、七月は長雨の晴れ間に除草を行いました。八月の日照りに負けず満開に咲いております。後の行



事は九月に神社清掃、参道の草刈等整備を行う予定です。本年はコロナ禍のために慰労会、新規会員の歓迎会が開催できず、残念に思っております。

小生いつの間にか男性の平均寿命が目の前となり、後の余生は頭の回転、動き



共に半分となりましたが、好きな事を好きなように、人様に迷惑を掛けないように、日々自由気ままに青空の下で、から元気を出して過ごせれば満足です。

(市川金男)

梶浦シニア会

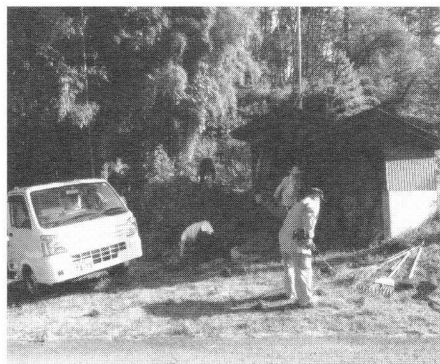
春からの事業として、ふ

れあい健康教室が社協の吉本さんの指導で行う予定でしたが「新型コロナウイルス感染防止」のため「緊急事態宣言」実施中だったので中止としました。七月九日は宣言解除となり九名が参加して行う。新型コロナウイルス感染に対して特に高齢者は感染リスクが高いので予防に徹底しようと呼

び掛けました。

七月二〇日には梶浦区民の守り神である「地藏尊」の祠内と周辺草刈り、草とりを行いすっきりきれいに清められこの日も大変な猛暑となり終了後全員で「暑気払い」を行い、コロナや熱中症にならないよう氣勢を上げ終了しました。

(宮下 聡)



麻績村老連 マレットゴルフ 交流会

期日 十月二十日(火)
参加者名簿提出日 十月九日まで
受付集合時間 八時
役場住民課 山本主任宛提出
会場 麻績マレットゴルフ場
開会式 八時三十分 スタート 九時

特集

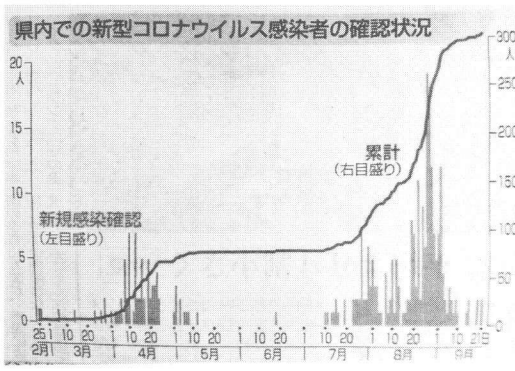
「コロナ禍に思う」

記録にある限り人類が最初に遭遇したインフルエンザの大流行(パンデミック)は、ほぼ一〇〇年前の「スペイン風邪」だ。三年間に世界で五億人が感染、死者は五〇〇〇万人にも達したとされ、史上最悪の感染症となった。

日本国内では四十五万人が死亡したという。それほど猛威を振ったスペイン風邪を、人類はどう乗り越えたのか、なぜ収まったのか。病床は満杯、商店や工場は休業、学校も休校、興行や活劇も中止となる。「予防心得」としては、人混みを避け、マスクを着用しうがいや励行するなど。

これらを見る限り、いまの新型コロナウイルス対応とそう変わらない。ただ当時の科学、医療水準は現在と比較にならないほど低く、情報量も少ないため、人々は恐怖におびえ、神頼み状態だったらしい。

これほどのスペイン風邪も終息した。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言を受け、私たちはできる範囲で人と人との接触機会を避け、外出を控え医療現場を守り、一日でも早い終息を迎えたい。



神明宮 茅の輪くぐり

コロナ終息祈願

厄払いを目的として、コロナ禍の中、疫病を鎮め退散させるため、茅の輪を歩



運厄除を祈願しました。

名称変更の時期

令和三年四月一日

「検討の経過」

一、ブロック研修会、女性指導者研修会でのアンケート結果でシニアクラブが最も多くの意見となった。

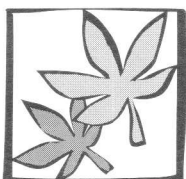
二、令和元年十二月、市町村老連会長、事務局会議の会長部会にて「シニアクラブ連合会」に変更との意見がだされ異論なかった。

三、令和二年二月十九日開催の第二十回理事会において名称変更することを決定する。

四、第十五回評議員会にて、「長野県シニアクラブ連合会」に変更することを、書面決議する。

「今後のスケジュール」
一、県大会にてお披露目
二、令和三年四月一日、変更した名称の法人登記。

麻績村老人クラブ連合会の名称変更についても今後検討することも考えております。



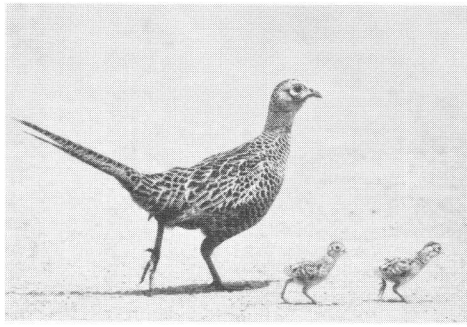
『長野県老人クラブ連合会の名称変更』

「長野県シニアクラブ連合会」に改称

雉子の親子愛

先日近所の丁君が畑の草刈をした所、雉子が卵を抱いていて草刈機の音で驚き逃げ出した。その時は卵があるとは気付かず、雉子は又その卵を暖めていた。翌日彼が私に話したので雉子の具合が悪いのかと思いはその雉子の背中の草を取り除いてやった時は、目をパチクリ、パチクリしていた。もしかして具合が悪いのか心配していた所I君が来たので雉子を連れて行って飼ったら、と言うと捕まえる為に体に触ったとたんに逃げ出した。すると五、六個の卵があった「雉子が子育ての為に抱卵していた」私達三人の廻りを羽を立てて、ものすごい剣幕で威嚇した。これは悪い事をしたと思った。

先日は、東京で三才の女の子を自宅に放置して、食物も与えず衰弱死させた事件があり、この雉子の親子



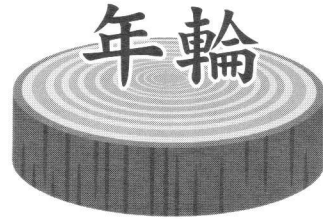
愛を見習わせたいと思った。連日の降雨でも、じっとして卵を暖めている、毎日気にして見ても相変わらず「抱卵中」いつ食事をするのか心配している。又、雛がかえっても無事に巣立つのか雛がチョコチョコ歩き廻ると昼間は空からトンビ、カラス、又地上では野良猫、タヌキ、キツネ、ハクビシン等が狙う。これからは弱肉強食の世界で生き抜かなければならない。今の親鳥が六日連続の雨でも抱卵中、いつ雛がかえるのか、無事に育つのか心配だ。日本の国鳥である雉子が無事に育つ事を祈るばかりです。

おせっかい親父 小山紀慶

麻績の未来のために

一、麻績駅開業

明治33年11月1日麻績駅が開業した。麻績宿のど真ん中に新しい明治町が誕生、開駅当時、日通麻績営業所、小松屋、寿志屋、油屋、しと屋(馬具)、中屋、小桜屋、



鍛冶屋、木曾屋、丸叶(魚店)、西側には、久能城(小山魚店)、花房屋(旅館)、笹屋菓子店、精米所、鹿田理髪店、信濃銀行、窪村商店、寿ぶき、小桜百貨店、岡本時計店、美濃屋(米)、警察署、などが軒を連ねていた。

駅前明治町通りは汽車が着くたびに粹なお客様、又、中町大和屋へのお茶会

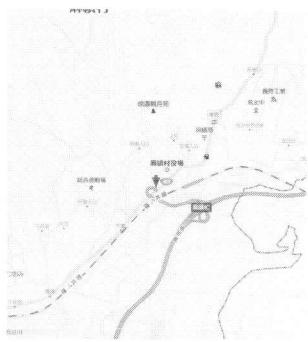
出席の女性達で賑わった。

二、聖高原観光開発

ふるさと創生事業の中で麻績村に一億円が与えられ地上権設定契約で別荘地の開発が進んだ。

聖高原別荘開発の観光会計より資金繰り入れ、又基金、補助金を充て、麻績小学校、北山ダムの建設、天王団地の建設等が推進された。特にダム建設に関しては、村内上下水道事業の整備が進んだ。

昭和50年の麻績駅は一日平均2、400人の乗降客、聖高原の夏のシーズンには一日平均12、000人、旅客収入100万円に跳ね上がった。



三、長野道麻績インター開通

平成5年3月25日 宮下土義長靴村長の村づくりの推進と、近隣町村を

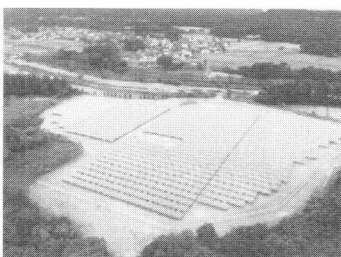
まきこんだ会議と陳情により麻績インターが誕生した。万葉集の時代から、千年以上の歳月を経て、信州は今、高速ネットワークで結ばれる時代を迎えた。

27年経った麻績村の現状 高齢化と人口減少、後継者不足への対応、手つかずの実態

四、太陽光発電事業をスタートさせよう

自然エネルギー100%の世界をみんなで作る。電気の売り上げの一部を使って、立地で農業振興を図る食品ブランドを創出、地域振興のために、クラウドファンディングという方法もあります。みんな、智恵と勇気を出して、早急に取り組みをスタートさせましょう。

刈間 豊



太陽光メガソーラー

新会長あいさつ



若林 今朝路
市野川

新型コロナウイルス感染が広がりをみせる三月、規模縮小しての総会において小山紀慶会長の後を引き継ぐ事になりました。よろしくお願ひします。

主要事業である「ゲートボール」「マレットゴルフ」「親睦旅行」を進めてまいります。尚コロナウイルスは高齢者の重症化率が高く事業を進めるにあたり「中止」「延期」を考慮する必要があります。

高齢化が進み老連のはたすべき役割、各種サークル活動等社会参加にどう向き合っていくか重要な時期を迎えています。

単位クラブの再編、未加入組織の加入推進に努め、老連が抱えている、健康、友愛、奉仕の三大運動を進め健康長寿を目指します。

新役員(敬称略)

副会長・広報部長



久保田 秀昭
下井堀

副会長・女性部長・広報担当



宮下 はるよ
梶浦シニア

会計・広報担当



塚原 勝美
桑山長寿会

監事

刈間

豊

小山

紀慶

令和2年度 麻績村老人クラブ連合会役員名簿

単位クラブ名	会員数		会 長	副会長	副会長	会 計	広報部長	GB部長	女性部長	副女性部長	監 事	備 考
	男	女										
麻績老連			若林今朝路	久保田秀昭	宮下はるよ	塚原 勝美	久保田秀昭	滝沢 清美	宮下はるよ	-	刈間 豊	事務局
下井堀	56			-	-	細谷 隆英	-	峯村 契子	遠藤 欣子	-	-	
上町笑話会	38		木藤 芳政	-	-	刈間 靖	-	-	宮下ちかえ	西沢八重子	-	
梶浦シニア	18		宮下 聡	宮下はるよ	-	宮下はるよ	-	-	-	-	-	
市野川りんど	49		市川 金男	若林 本一	-	若林 本一	-	-	-	-	-	
桑山長寿会	151		小山 紀慶	塚原 勝美	-	塚原 秀俊	-	滝沢 清美	塚原なが子	-	-	
丸 山	59		城山 敏	飯森 尚	-	城山 敏	-	-	-	-	-	
女湖・砂原	0		-	-	-	-	-	-	-	-	-	休会
西麻績聖寿会	0		-	-	-	-	-	-	-	-	-	休会
天王シニア会	0		-	-	-	-	-	-	-	-	-	休会
本町本友会	0		-	-	-	-	-	-	-	-	-	休会
宮 本	0		-	-	-	-	-	-	-	-	-	休会
高桑ゴールド	0		-	-	-	-	-	-	-	-	-	休会
合 計	371											
	161	210										

編集後記

今年の七月は長雨と豪雨、八月は旱天と猛暑で、農業には大変な年であった。

農家の高齢化が進み、山間のこの地域では農業後継者のいる家はほとんど無く高齢者のみの農家が多い。

若者は皆、村外で生活していて、家の農業を継承しそうな人は無さそう。山際の畑は耕作放棄地が広がっている。

「耕して天に至る」と精魂こめて守り続けて来た土地の荒廃は誠に残念だがなす術もない。日本の食糧自給率の低さも、この頃はあまり話題にならなくなった。

「農は国の基」の言葉は過去のものになったか？

「百姓は苦勞ばかりで全くもうからない」と嘆きながら、将来に不安を感じる昨今である。

(塚原勝美)